



キルギス日本語教師会創立 20 周年記念特集号

キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年記念

第3回日本学・日本語教育国際研究大会実施報告

2019年8月24～25日にカラサエフ記念ビシケク人文大学で第3回日本学・日本語教育国際研究大会が開催されました。研究大会は国際交流基金助成事業としてビシケク人文大学（9月よりビシケク国立大学と名称変更、本稿では旧称を用いる）とキルギス共和国日本語教師会が共催し、在キルギス共和国日本国大使館より後援をいただきました。研究大会の開会に当たってビシケク人文大学東洋国際関係学部副学部長トリョーフ・カナット氏とキルギス共和国日本語教師会会長ジョルブラコワ・マイラムが挨拶しました。

研究大会には二日間延べ100人以上が参加しました。内訳は、日本語研究者、日本研究者、日本語教師、在キルギス共和国日本国大使館スタッフ、国際協力機構（JICA）ボランティアの方々ほか、キルギスの大学卒業生や現役の学部学生のみなさんです。



アメリカのプリンストン大学名誉教授牧野成一先生と麗澤大学教授近藤彩先生のお二人が招聘講師としてキルギスに来てくださいました。牧野先生の基調講演のテーマは「日本語を翻訳すること—失われる



もの、残るもの」、近藤先生のワークショップのテーマは「会社で働いたことがない日本語教師はビジネスコミュニケーションを教えることができるのか—教師養成の観点から—」でした。

キルギス側の発表者は、ビシケク人文大学、キルギス国立総合大学、キルギス日本人材開発センター、キルギス国際大学の教員とビシケク人文大学修士課程修了者および学部卒業生でしたが、キルギス国外から

らも、のぞみ日本語学校、津田塾大学、モスクワ国立国際関係大学、モスクワ市立教育大学の先生方による興味深い発表がありました。

研究大会の開会にあたってビシケク人文大学東洋国際関係学部日本語日本文学研究講座長でキルギス日本語教師会賛助会事務局の氏原名美教授がキルギス共和国日本語教師会創立 20 周年を記念して「転換期を迎えたキルギス共和国日本語教師会」と題したビデオによる活動報告を行いました。

二日間の研究発表と実践報告のテーマは実に様々でした。「日本語研究における文化的なアプローチ」、「漢字学習ストラテジーとしての音符の学習とその意義」、「漢字の異種構造の分析及び漢字指導での応用」、「初心者向けの電子漢字教材開発について」、「語彙習得を目指して— J POP を使った授業—」、「キルギス手話通訳の現状と展望」、「『まるごと』の「生活と文化」を教える」、「初等教育における日本語への興味を深める授業」など、どの発表も参加者の関心を集め、多くの質問とコメント、議論がなされました。

会場にはキルギス共和国の教育機関が出版した教材や日本語教師会会員が執筆した学術論文誌に書籍、それにキルギス日本語教師会の会報バックナンバーなどの閲覧コーナーが設けられました。

山村嘉宏キルギス駐箚日本国特命全権大使が、研究大会の参加者全員を招いて大使公邸でレセプションを催してくださいました。レセプションで山村大使が祝辞を述べてくださり、参加者は和やかな雰囲気の中で美味しい日本料理を味わいながら交流していました。研究大会準備や実施にあたっては、各機関関係者の方々や学生の皆さんなど多くの方々の協力をいただきました。

この場をお借りしてお礼を申し上げます。

キルギス共和国日本語教師会は、来年も研究大会を開催します。第 4 回日本学・日本語教育国際研究大会に是非ご参加ください。研究発表や実践報告など、多くの皆さんの応募もお待ちしています。



第 3 回日本学・日本語教育国際研究大会実行委員
アラバエフ記念キルギス国立大学付属日本学院講師
イシライロワ・ジルディズ

第3回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会に招かれて

プリンストン大学名誉教授
牧野成一

まず最初に、ビシケク人文大学で行われた日本学・日本語教育国際研究大会に私をお招きくださったガリーナ先生に心より感謝のこぼを申し上げたいと思います。さらに大会の運営委員長として見事にその責務を果たされたジーカ先生に大きな拍手をお送りしたいと思います。東洋国際関係学部日本語、日本文学講座の先生方、そして、学生さんたち一その働き振りに大変感動しました。

全く初めてのキルギス訪問で日本や欧米では経験ができない新鮮な文化体験ができました。勿論5日間の短い滞在ではキルギス文化のほんの表面を見ただけで、それについて語る資格はありません。しかし、危険なことは重々承知の上で、感想を書いてみます。

ロシア語の影響が強いことは想像していましたが、キルギス語よりもロシア語が日常語としてよく使われていることは大きな驚きでした。交通標識、店や建物の名前がロシア文字で綴られていることから、綴りだけでなく、ロシア語自体が生活語だということがよく分かりました。おそらくロシアの言語文化だけでなく、言語を含むロシアの文化が強い力を持っているのでしょうね。長い歴史を持ったキルギス語のことに強い興味を湧いてきました。



私は色々な国の建築に強い関心があります。今回びっくりしたのは人文大学の正門です。あのような巨大で、仰ぎ見るような大学の正門は日本、中国、インド、アメリカでは見たことがありません。プリンストン大学にも正門はありますが、周囲の塀より倍ぐらい高いだけです。ただし卒業式以外に学生はそこから外に出ると卒業できないという面白いジンクスがあります。

大変残念だったのは27日は早朝の出發だったので、天山山脈にあるイシククリ湖を見ることが出来なかったことです。

でも、その代わりアセーリ先生と学生さんに案内されて、町から40分ぐらい離れた近くの山にいろいろとお話をしながら登りました。山のそばにリズムカルな音をたてて勢いよく流れる川があり、そこに鱒(ます)が泳いでいるということだったので、お昼ご飯はその鱒の丸焼きを食べさせてくれる伝統的な店に案内してくださり、お頭づきの丸焼きの鱒をおいしくいただきました。いつも海の魚を食べていた私が鱒を食べるのは本当



に久し振りでした。

観光の話はこれぐらいにして、学会の発表についていくつか感想を書いておきます。どの発表も大変おもしろい発表でした。しかし何と言ってもユニークなのはガリーナ先生の数理的な漢字の分析でしょう。その分析は漢字教育に役立つことにちがいないと思います。私は漢字の語源の分析に強い関心があるので、膨大な中国の考古学的資料を使った中国人の発見を白川静がまとめた『常用字解』（2003）を愛用しています。それによると漢字の多くが宗教的な語源を持っている点に強い関心があります。



近藤先生のお話は、おっしゃる通り、私も「外国人労働者」とのつながりのために会社の文化を知ることが極めて大事だと思います。この問題は今年の4月にアルク主催で開かれた討論会で私も議論に加わっていました。その後、7月に、これも私も参加した函館の北海道国際交流協会でもこの問題に関する討議が行われ、北海道教育大学の森谷康文先生（社会学者）から日本語が全然できない外国人の「肉体労働者」とのつながりの問題が指摘されました。

アセーリ先生は通訳教育の問題を提起されています。これも非常に大事な問題です。翻訳というと、普通は書かれたものをAの言語からBの言語に移し替えることです。分かりきったことですが、通訳は話されたことをAの言語からBの言語に移し替えることです。ただし、通訳の方は普通言い直しがきかないために難しいと思います。これは逐一通訳の場合ですが、同時通訳はひどく難しいですね。ヨーロッパ、オーストラリア、アジア諸国では通訳教育に力を入れているようですが、アメリカでは皆無に等しいです。通訳者は言語能力もさることながら、さまざまな非言語能力を必要とする難しい領域ですが、日本語教育のなかでは言語能力に中心をおいて日本語教育としての通訳ということが成り立つと思います。

風間先生のJ-POPを使った授業はまさに私が講演で触れた「ことばは音楽だ」あるいは「音楽はことばだ」ということを実証していると言っていいでしょう。学生が好きなJ-POPを使って、楽しみながら日本語のリズムを学べるようにすることは日本語教育にとって役に立つことだと思います。私が講演で触れた芭蕉の俳句だけでなく短歌も同じように日本人の息遣いである5-7のリズムを生み出していますから、ぜひよく知られている俳句、そして短歌では、ご存知だと思いますが、ベストセラーになった俵万智（たわら・まち）の口語短歌『サラダ日記』（1987）を使うと、プリンストン大学での経験では、学生たちは喜んで翻訳をしていました。私の経験から言って、日本語教育に役立つと思います。ロシア語の翻訳はないようなので翻訳練習をしたらどうでしょうか。例えば、「潮風に君のおいがふいに舞う抱き寄せられて貝殻になる」の翻訳はどうでしょう。

まだまだコメントをしたい発表がありました。ここでストップさせていただきます。最近いただいた『キルギス日本語教育研究』にもすばらしい論文が載っています。これから目を通すつもりです。

第3回日本学、日本語教育国際研究大会が大成功に終わりましたね。重い肩の荷が下りたことと思います。私を含めて、参加者一同、それぞれの視点からおおいに学ぶことができたと思います。この大会に私を加えてくださったガリーナ先生にもう一度お礼を申し上げます。

みなさん、本当にありがとうございました。どうぞお元気で、それぞれ楽しく、お過ごしください。もしよかったら、私みたいに毎日泳いでください。きっと健康だけでなく、いい研究成果が出てくることと思います。私のEmail Addressは smakino@princeton.eduです。



キルギス共和国日本語教師会 大会に参加して

麗澤大学教授 近藤彩

キルギス共和国日本語教師会 20 周年、おめでとうございます。そして、この度日本語教師会主催の記念すべき大会に招聘していただきことを深くお礼申し上げます。20 年継続してきた背景には、多くの方のご尽力があってのことだと思えます。ヴォロビヨワ・ガリーナ先生をはじめ、ご尽力したすべての関係者の皆様にお祝い申し上げます。

これまでキルギスの日本語教育事情については日本で見聞きしていました。しかし、これほどまでに日本語の先生方が熱心に、そして明るく、パワフルに日本語教育に取り組まれているとは思いませんでした。ご発表や質問のやり取りは非常に刺激的でした。大会に参加して今後も日本語教育が発展することを確信しました。



キルギスの日本語教育は今後、新たなひろがりを見せていくと思います。私の講演でも触れましたが、現在、日本社会は、新たな局面に入っています。それは外国人（労働者）の受け入れに積極的になったということです。日本の事情でキルギスの方に来ていただくとは思っていませんが、もし日本で働く場合は、さまざまな力が必要となります。

日本語を手段として、仕事の課題を達成し、問題が起きたら解決するということが求められます。それは言語知識だけではない、広範囲な力を身につける必要があることを意味しています。

このような多様な力を大学や教育機関で育成することは可能です。今は日本語学習者が日本語を使って働くということを念頭にしている先生方はそれほど多くないかもしれません。しかしながら、これからは変わっていくでしょう。高度人材、技能実習生、特定技能など、学習者がどの身分で来日するかはわかりませんが、仕事をする上で（生活していても）、トラブルは起こるものです。日本語力をつけると共に、問題を発見し解決する力、課題を達成していく力、分析する力、異文化を理解する力、人と協働する力などさまざまな力を、このキルギスで身につけてほしいと思います。そのためには、教師は教える、知識を伝える、ということだけではなく、学習者に考えさせる、能動的主体的に取り組ませるといった教育を実現していただければと思います。皆様の一層のご発展を心から願っております。素敵な時間をありがとうございました。



政策研究大学院大学で修士号と博士号を取得した教師との再会



キルギス日本語教師会創立 20 周年記念第 3 回日本学・日本語教育国際研究大会に参加して

元ビシケク人文大学准教授 ヴォロビヨワ・ガリーナ



2019 年 8 月キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年を記念してビシケク人文大学を会場に開催された『第 3 回日本学・日本語教育国際研究大会』に参加しました。24 日には共同研究者のヴォロビヨフ・ヴィクトルが「初心者向けの電子漢字教材開発について」と題した研究発表を行い、また翌 25 日に私は「漢字の異種構造の分析及び漢字指導での応用」をテーマに研究発表をしました。

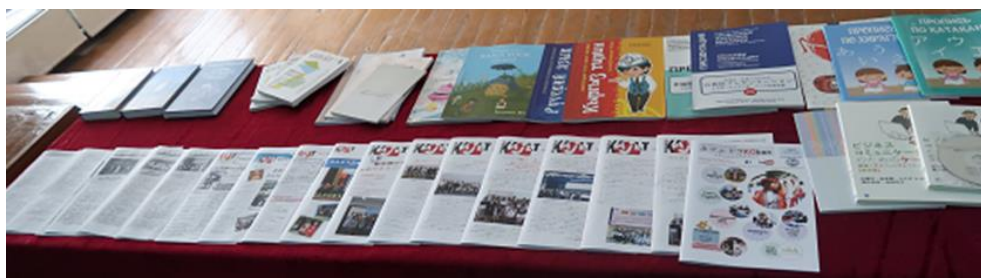
ここでは、研究大会の感想と今回外国からいらした参加者との交流について述べます。今回教師会が研究大会のメインゲストとしてお招きしたのはアメリカのプリンストン大学名誉教授の牧野成一先生と麗澤大学（千葉県柏市）教授の近藤彩先生です。私が牧野先生と知り合ったのは 2011 年に中国の天津外国語大学で開催された『第 10 回世界日本語教育研究大会』のときで、牧野先生はアメリカの漢字研究者について貴重な情報を紹介してくださいました。2013 年にベトナムで再会しましたが、それはハノイ大学で開催された『日本語教育開始 40 周年記念第 2 回国際シンポジウム』で牧野先生と私が基調講演をしたときのことです。その後先生と交流を続ける中でキルギスの研究大会のお知らせをして、招聘講師としてキルギスに来てくださらないか打診したところ、先生は快諾してくださいました。

近藤先生には個人的に大変お世話になりました。2014 年に私が論文博士を目指して臨んだ審査の際、政策研究大学院大学の日本語文化研究プログラム（博士課程）ディレクターとして審査委員長を務めてくださったのです。先生も今回のキルギス訪問を快く受けてくださいました。

また、2019 年 3 月にモスクワ市立外国語大学で開催された国際研究大会では、グレーヴィチ・タチアナ教授と知り合い、キルギス大会のことをお知らせしたところ、先生は参加申し込みをしてくださりました。



そして去年の研究大会では招待講師の一人としてワークショップをしてくださった津田塾大学の関麻由美先生が今回キルギス再訪です。「のぞみ日本語学校」校長で J-cert 日本語検定委員の北嶋千鶴子先生と一緒に来てくださったのです。さらに、日本語教育アドバイザー、モスクワ市立教育大学客員講師、国際交流基金日本語上級専門家の黒岩幸子先生もいらしてくれたので外国からの参加者は合わせて 6 人となりました。今までの参加は日本と中央アジア諸国からだけでしたが、今回は初めてアメリカとロシアから参加してくださって嬉しく思いました。ただ、今回は、参加希望はあったものの、諸事情で中央アジア諸国からの参加が実現しなかったのが残念でした。



研究大会では、まず、キルギス共和国日本語教師会創立20周年を記念した教師会活動報告として一時帰国中だった氏原先生によるビデオ・プレゼンテーションがあり、続いて

ロシア連邦日本語教師会会長ネチャーエワ・リュドミーラ先生からの祝辞をグレーヴィチ先生が代読されました。また、参加者に教師会をよりよく知ってもらおうと、会場には教師会会員が執筆した教材、研究論文、そして2000年の創刊から現在に至るまでの教師会会報バックナンバーと2017年に第1号が発行された教師会研究紀要『キルギス日本語教育研究』などの展示コーナーが設けられていました。



牧野先生の基調講演は「日本語翻訳するという一失われるもの、残るもの」と題した興味深いもので、おかげで重要な知識を得ることができました。近藤先生のワークショップ、「会社で働いたことがない日本語教師はビジネスコミュニケーションを教えることができるのか—教師養成の観点から—」では、ビジネスコミュニケーションの問題に関するグループワークもあって、参加者は3人ずつのグループになって賑やかに

ディスカッションをしました。私は牧野先生とビシケク人文大学の卒業生のダスタンさんとのグループでした。私はダスタンさんと一緒にテーマについて色々検討した結果を聴衆の前でロールプレイをしましたが、とても楽しかったです。



キルギスの教師や研究者の研究発表と実践報告もありました。テーマは様々で、どれも興味深いものでした。大学を卒業したばかりの人の発表もありました。聴衆から貴重なコメントをもらうことができ、彼らにとっては将来の研究のために重要な経験だったと思います。

8月24日の晩、大会第1日目終了後、駐キルギス日本国特命全権日本大使山村嘉宏氏が参加者を大使公邸に招待してくださいました。レセプションではそれぞれ談笑したり日本料理を味わったり、楽しいひと時を過ごしました。特に若いJOCV隊員たちと研究大会の裏方として働いてくれた大学生達は滅多に経験できない機会を得て実に嬉しそうでした。



招聘講師のお二方もゲスト発表者の方々にも研究大会とキルギスのおもてなしを高く評価していただきました。ゲストの先生方の短い滞在の合間を縫って、キルギス国立総合大学、日本人材開発センター、マナス記念碑、中央広場、プロフセンター、エスノグラフィック総合施設「スパラ」、パンフィーロフ公園、国立美術館、蜂蜜マーケット、アラアルチャ国立自然公園、イシククリ湖などをご案内しましたが、またいつかキルギスを訪れたいと言ってもらえて、心から嬉しく思いました。

参加して思うこと～これからの必要なインクルーシブの視点～

津田塾大学非常勤講師 関麻由美



昨年に引き続き、今年もキルギスにやってきました！大会の3日前にキルギス入りし、ビシケクを中心部の散策やアラ・アルチャ国立公園の景色を楽しみ、大会後にはワークショップをされた近藤彩先生、手品で文型導入をご披露された北嶋千鶴子先生とご一緒に、ガリーナ



先生のご案内でチョルポン・アタまで一泊旅行を堪能してきました。昨年はキルギスの魅力に圧倒され、今年はさらに新たな体験をした旅でした。インククリ湖で泳いだりノマドゲームを生で観戦したり、キルギスの自然と文化にどっぷり浸かったことも素晴らしい思い出ですが、大会の参加者のみなさんと、熱い2日間をともに過ごしたことも大いに刺激になりました。今年の発表も昨年同様にどれもバラエティに富んでいて大変興味深かったのですが、障害者（あえて



障害者とは書かないことにします) に関する発表が2つ

あったことも心に残りました。障碍の有無にかかわらず、誰しもがその人なりに社会と接し、社会の一員として存在できるよう、共生社会に向けてインクルーシブ教育がこれからどんどん必要とな



っていく、そのことを象徴している発表だったと思います。日本語も、これまでのように日本に住んでいる人だけが使うことばではなく、世界のあちらこちらで誰かが（それも様々な誰かが）使っていることばになっていくだろうと思います。日本語教育



においてもインクルーシブの視点から考えるべき時が来ていると感じました。

最後になりましたが、実行委員のみなさん、お手伝いに奮闘してくれた学生のみなさん、ありがとうございました。来年はどんな大会になるのでしょうか。楽しみです。

キルギス人のおもてなし

J-cert 日本語検定監修委員長、のぞみ日本語学校校長
北嶋千鶴子

第3回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会に出席及び発表させていただいたことは私にとりまして大変貴重な体験でした。以前より少しでも授業を楽しくするためのヒントを先生方に教えて参りましたが、



キルギスでも発表できて本当によかったと思っております。また大会で多くの有意義な発表を聞くことができたことは今後の活動に大変役に立つと思



います。大会やそこで出会った人々のことも書きたいと思いますが、それに関しましては他の

方々も書かれると思いますし、またキルギス全体のことについての感想文でもよいと伺いましたので、私は全く違った視点から気が付いたことについて特にキルギス人のおもてなしについて書きたいと思います。

私がまず驚いたのはガリーナ先生から様々なお土産をいただいたことです。先生のお宅に招待された私が手土産を持っていくのは当然ですが、ご自宅でごちそうしてくださった上に手作りのジャムを始めキルギスの民芸品やチョコレートなどいろいろな物をいただきました。日本人だったらごちそうするだけで十分だと考えますがキルギスでは違うようです。日本人以上にもてなしてくれるので戸惑いました。このことについては友人もいつもいろいろたくさんもらいすぎるのでどうお返ししたらよいのかと言っ



ていました。

親しい人ばかりではありません。小旅行の運転手を務めてくれた人が一緒に様々な施設を回ってくれたので彼のための入場料を払おうとしてどうしたらよいかガリーナ先生に質問しました。するとお金を渡したら怒られると言われました。仕事なのだからもらってもよいと思うのですがキルギス人は違うようです。申し訳ないので手作りの飾りをあげたら、後でキーホルダーを3人分買って私達にくれました。彼の気持ちなのでありがたく



いただきましたが、お金を使わせてしまって申し訳ない気持ちになりました。こちらがあげた以上のことが返ってくるのだとわかりました。学生にちょっとしたお土産を渡した時も同じでした。あげた以上の物が帰って来てしまいました。

よく外国人に日本人は直ぐにお返しをされると言われていますが、キルギス人も負けていません。否、日本人以上だと思いました。

また、こんなこともありました。サナトリウムで一人で散歩していた時にそこで働いているキルギス人の女の人に会いました。はじめ遠くの松林でその人を見かけたので手を振ったら彼女も手を振ってくれました。その後近くに行ったら何をしているのかと尋ねると、袋いっぱいきのこを見せてくれました。見ると林のあちこちにきのこが生えているではありませんか。私も一緒にきのこを採りました。



た。彼女は英語が話せなくてごめんねと言ってそれでも名前を言ったりきのこは食べることなどを教えてくれました。私達はほんの5分ぐらい一緒にいただけで別れましたから私は彼女にまた会うとは思いませんでした。でも私が散歩から帰って建物に入った時に彼女に呼び止められました。彼女はお土産屋で働いていました。彼女はちょっと待ってねという動作をして店に入って何か持ってきて私にくれました。それはネズミの形をした可愛らしい根付のような飾りでした。いただく理由もなかったのですが、彼女のニコニコしている顔を見ていたら有り難くいただくという気持ちになりました。後で手作りの小物を渡そうとしたけれど店が閉まっていたので渡せなかったのが残念でし

た。

そのほかバザールでわざわざ伝統的な楽器を持って写真を撮るように勧めてくれた親切な人もいました。私は今回キルギスで様々な人と触れ合ったことで今まで以上に親しみを感じるようになりました。大会で得たことはもちろんですがそれ以外でもとても有意義な訪問だったと思います。このような機会をくださって大変感謝しております。ありがとうございました。





忘れられない体験

ビシケク国立大学東洋国際関係学部講師
ウシケムピロワ・ナズグーリ



第3回国際日本学・日本語教育研究大会に発表者として参加させていただきましたが、第1回の研究大会に参加した時は、自分の名前が2年後の大会の発表者リストに載ることになるとは夢にも思っていませんでした。発表テーマは修士論文で取り組んだ「日本語とカザフ語におけることわざ、慣用句表現、寓話の異文化間比較」でした。

牧野先生、近藤先生、グレーヴィチ先生、そして関先生ほか著名な研究者の方々と交流できたのは、大会参加者全員にとってとても光栄なことでした。今回の参加者は興味深いお話が聞けて、それぞれの人生で忘れられない経験となったはずです。私も発表後、アドバイスや貴重なコメントをいただき感謝しています。

キルギスで長年教師として活動している方々の発表は、初心者である私にとって非常に役に立つものでした。経験の浅い日本語教師を動機づけてくれる発表を聞かせていただきました。また、大学を卒業したばかりの後輩たちの発表にも感動しました。私と同じく、日本語教育や日本学に大きな関心を寄せている若者がこんなにいてくれたのだと思って、嬉しくなりました。

大会主催者であるキルギス共和国日本語教師会とビシケク国立大学（旧称：ビシケク人文大学）に深く感謝の意を表したいと思います。日本語教育と日本研究の専門家の数が不足している中で、このような大きな事業に取り組んでくれました。このような学術会議は、これからも引き続き開催されるべきものと思います。新たな出会いをもたらしてくれると期待しています。

最後になりましたが、皆様のご健康をお祈りするとともに、とさらなる活動の成果を期待しています。

Незабываемый опыт

Назгуль Ушкемпирова,
преподаватель КЯФ ФВМО БГУ

Я приняла участие в 3-й Международной конференции по японоведению и методике преподавания японского языка в качестве докладчика. Когда я присутствовала на 1-й конференции, то даже и подумать не могла, что через 2 года мое имя будет в списке докладчиков. Тема моего доклада была «Межкультурное сопоставление пословиц, устойчивых выражений и басен в казахском и японском языках». Доклад был основан на материале моей магистерской диссертационной работы.

Для всех участников было большой удачей услышать невероятно интересные выступления таких известных ученых и преподавателей, как Макино-сэнсэй, Кондо-сэнсэй, Гуревич-сэнсэй, Сэки-сэнсэй и других. Это был незабываемый и важный опыт в моей жизни. Хотелось бы выразить благодарность и за бесценные комментарии, которые я услышала после моего выступления.

Доклады местных преподавателей, имеющих большой опыт работы, также были интересными и познавательными. Я была под впечатлением и от выступлений студентов-выпускников этого года. Очень рада была видеть молодых людей, интересующихся японоведением и методикой преподавания японского языка.

Хотелось бы выразить огромную благодарность Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики и Бишкекскому государственному университету, которые взялись за организацию, несмотря на нехватку преподавателей и японоведов. Думаю, что и в дальнейшем следует продолжать организовывать подобные конференции. Надеюсь на новую встречу.

Желаю всем здоровья и дальнейших успехов в деятельности.



国際的なレベルの学術会議

ビシケク人文大学 2019 年卒業 ボロトベック・クズ・サイカル

今年の 8 月 24・25 日にビシケク人文大学（現ビシケク国立大学）で行われた研究大会に参加した。アメリカからもロシアからも日本からも著名な先生方が来られて日本語や日本語教育に関する楽しいマスタークラスや興味深い発表をしてくださり、とても勉強になった。キルギスの先生も大勢発表して、自分がそれまで知らなかったキルギスに関する情報をたくさん知った。



私も、卒業研究で実施した調査に基づいて「キルギスの手話と手話通訳の現状と展望」という発表を行った。調査結果の考察からキルギスの課題が明らかになった。この分野の研究はキルギスではまだほとんど行われていないが、今回の研究大会での発表を通じて、今まで知られていなかったキルギスの手話と手話通訳の現状やろう教育の問題点について、キルギス社会のほんの一部の人たちだけけれども、会場の参加者たちが知ってくれたなら、本当に嬉しく思う。

発表後、著名な研究者である偉大な先生方からアドバイスをいただき、私はさらに研究を続けて、将来はキルギスの手話教育に貢献したいと強く思うようになった。

今回のような国際的なレベルの学術会議で発表したのは初めてで、とても有意義な経験だった。これからもこのテーマで研究を続け、来年の研究大会では、それまで得られた研究成果を発表したいと考えている。



初めての学術会議での発表 第3回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会に参加して

ビシケク人文大学 2019年卒業 ジュマドゥロワ・クンバット

今回、「第3回日本学・日本語教育国際研究大会」に参加できてとても満足しています。アメリカ、日本、ロシアから来てくださったゲストの先生方の興味深いお話をうかがうことができました。キルギスの先生や学生たちの発表も有益で本当に勉強になりました。

研究大会は日本とキルギスのまた新たな架け橋になったと言ってもいいのではないのでしょうか。日本語を教えることについてだけではなく、日本とキルギスの両国関係に関しても話し合われたからです。

私の発表は、叙事詩『マンナス』の理念と武士道の規範について対照研究した結果の報告でした。発表の後、将来もこのテーマで研究を続けようと思っている私にとってとても役に立つ貴重なアドバイスをたくさんいただきました。中でも、モスクワからいらっしゃったグレーヴィチ先生の批評とアドバイスには特に感謝しています。

このような素晴らしい大会がキルギスで開催されていて本当に嬉しく、研究大会の主催者および参加者の皆さんに感謝の意を表したいと思います。



Первый доклад на научной конференции мои впечатления о 3-й международной конференции

Кымбат Жумадылова, выпускница БГУ 2019 г.

Я очень рада, что мне удалось принять участие в 3-й международной конференции по японоведению и методике преподавания японского языка. Было интересно послушать доклады наших многоуважаемых гостей из США, Японии и России. Доклады местных преподавателей и студентов также были очень познавательны и полезны. Можно сказать, что эта конференция стала ещё одним мостиком между Японией и Кыргызстаном, ведь на ней обсуждались не только вопросы преподавания японского языка, но и отношения между Японией и Кыргызстаном. В моем докладе я сравнила идеологию эпоса «Манас» и кодекса Бусидо. После выступления я получила ценные советы, которые будут полезны в моих дальнейших исследованиях по данной теме. Особенно благодарна за критику и советы профессору из Москвы Т. М. Гуревич.

Очень радует то, что в нашей стране проводятся такие замечательные мероприятия, и хочется выразить благодарность всем организаторам и участникам конференции.





研究大会に参加して

ビシケク国立大学東洋国際関係学部大学院生
アサンカリーエフ・ダスタン

今年の8月、ビシケク人文大学で二日間にわたって「第3回日本学・日本語教育国際研究大会」が行われました。運良く私も大会に参加することができました。発表者は、日本からだけではなくロシアやアメリカからいらっしゃいました。日本語教育や授業実践、教育事情の報告や障害者支援に関する凄く面白い発表ばかりでした。

発表の中で特に興味を惹かれたのは【外国人労働者の受け入れ拡大】という情報でした。日本の出入国管理の法律改正は、在学中の学生や卒業見込みの学生にとってとても関心がある問題です。将来は日本や日本語に関係がある仕事に就きたいと考えている学生が多いからです。

私も例外ではありません。ビシケク人文大学で4年間日本語を勉強しましたが、卒業後は日本と結びつきがあるような仕事を見つけたいと思っていました。今回、ある種の確信が得られました。自分の選択は正しかったのだ、彼の地の言葉や文化を学ぶのにどれだけ時間がかかったとしても、決して無駄に時間を費やしたのではないのだ、つまり、日本語を勉強した甲斐があった、と納得することができたのです。

研究大会では、日本語教育に関する研究だけではなく、障害者の問題に関するテーマの発表もありました。日本と比較すると我が国では残念ながら障害者の問題に関する研究があまりないように思います。でも、今回わがキルギスの2人の発表を聞いて、嬉しく思いました。今後はキルギスでもこのような研究をする人が増えていけると期待しています。

「第3回日本学・日本語教育国際研究大会」に参加するチャンスを与えて下さった主催者のみなさん、発表者、実行委員の皆様から心から感謝申し上げます。次の大会も楽しみにしています。

Об участии в научной конференции

Дастан Асанкалыев, магистрант БГУ

В августе этого года мне посчастливилось принять участие 3-й международной конференция по японоведению и методике преподавания японского языка, которая проходила в Бишкекском гуманитарном университете им. К. Карасаева. Лекторы и докладчики приехали из разных стран: из Японии, России и США. На конференции прозвучали интересные доклады на темы, касающиеся не только методики преподавания японского языка, но и проблем лиц с ограниченными возможностями. Также во время докладов часто звучала информация о новом законе о трудовых мигрантах в Японии. Я думаю, что для нынешних студентов и выпускников важна данная тема.



Ведь немало тех, кто хотел бы связать свою будущую профессию с японским языком и с Японией. И я тоже не исключение. Изучая японский язык в Бишкекском гуманитарном университете, я хотел после выпуска устроиться на работу, связанную с Японией. Получение такой работы является подтверждением, что ты сделал правильный выбор и не зря потратил столько времени на изучение языка и культуры.

А также радует то, что с каждым годом растет количество научных трудов, связанных с проблемами лиц с ограниченными возможностями. По сравнению с Японией у нас в Кыргызстане мало уделяют внимания этим проблемам, поэтому важно, что именно наши соотечественники выступают с докладами на данную тему. Надеюсь, что в дальнейшем этой теме будет уделяться еще большее внимание.

Хотелось бы поблагодарить организаторов за возможность принять участие в конференции. Жду с нетерпением следующей конференции.

有意義で思いがけない貴重な経験～研究大会に参加して～

ビシケク国立大学 4年 アットクローワ・メーリバン

私たちの恒例行事となった『日本学・日本語教育国際大会』がビシケク国立大学を会場に開催されました。幸運にも私は今年で3回目となった大会の参加者の一人になることができました。今年は発表内容が去年以上に多種多様で面白い大会でした。



私が特に興味を惹かれたのは、ビジネス・コミュニケーションでの日本語のニュアンスに関する近藤先生の講義でした。また、北嶋先生が紹介してくださったゲーム

を使った日本語学習アプローチもとても気に入りました。そして、先生や先輩たちが興味深くてためになる発表をしてくれたのを「すごいな！」という気持ちで聞いていました。研究大会ではかなり難しいアカデミックジャパニーズが使われていたのですが、私は発表の内容がほとんど全部理解できて、自分でも驚いてしまいました。ロシア語による発表もありましたから、私は自分のそばに座っていた日本人の皆さんに通訳をするという、またとない経験をさせていただくことができました。

北嶋先生とは、研究大会でお目にかかるまでメールのやり取りでしか存じ上げなかったのですが、今回直接お近づきになれてとても光栄でした。先生は想像していたよりずっと優しくて温かな方で、「東京に来たら遊びにいらっしやい」とおっしゃってくださいました。私は、日本へ行ったらすぐにでも先生にお会いしたいと思っています。今回の研究大会は私にとっては素晴らしい経験でした。新しく知ったことがたくさんあって、私自身、学びたい、研究活動に従事したい、という思いを一層強くしたからです。全て、研究大会に参加したおかげだと思っています。

Бесценный опыт участия в конференции

Мэрибан Агтокурова, студентка 4 курса БГУ

24-25 августа в нашем университете проходила очередная научная конференция по японоведению и преподаванию японского языка, участницей которой мне посчастливилось стать. Хотелось бы отметить, что по сравнению с прошлогодней конференцией в этом году доклады мне показались гораздо сложнее и интереснее. Особенно интересной мне показалась лекция Кондо-сэнсэй о нюансах японского делового общения. Очень понравилась презентация Китадзимы-сэнсэй об игровом подходе к изучению японского языка. Также порадовало участие наших сэнсэев и сэнпаев, у которых были очень интересные и полезные доклады.

К моему удивлению, я понимала содержание практически всех докладов несмотря на то, что использовался довольно сложный академический японский язык. На конференции было несколько докладов на русском языке, поэтому я смогла получить бесценный опыт в качестве переводчика на японский язык для сидевших рядом японцев. Я была очень рада познакомиться лично с Китадзимой-сэнсэй, с которой до этого мы лишь переписывались по почте. Эта встреча превзошла все мои ожидания, потому что сэнсэй оказалась очень милым и добрым человеком и даже пригласила меня к себе домой в Токио. Надеюсь, что мы скоро встретимся с ней в Японии. В целом могу сказать, что лично для меня это был замечательный опыт, поскольку я получила море новой информации, вдохновение учиться и заниматься исследовательской деятельностью.



人々との出会い～研究大会の贈り物～



ビシケク国立大学3年 ムラトワ・ウムット

以前から先輩たちに何度も聞いて、自分も参加したいなと思っていたのがこの研究大会です。講演も研究報告も全部がとても興味深いものでした。ただ、発表はほとんど日本語によるものでしたから、日本語を勉強して2年にしかならない私にとっては、聞いて理解するのがかなり難しかったです。

特に面白いと思ったのは翻訳に関するテーマでした。大事なものは、テキストに書いてある意味を伝えるだけでなく、テキストに込められた著者の気持ちを伝えることで、それができて初めて正しい翻訳なのです。

北嶋先生の報告は、他の発表と少し違って、ゲームをして楽しく面白いやり方で日本語を勉強するというものでした。私はあと二人の学生と一緒に先生の発表のお手伝いをしました。長さが違うロープを引っ張って、誰のロープが長いのか、誰のロープが短いのかという比べっこをしました。他にも日本語の勉強がずっと楽しくなりそうな簡単なゲームをたくさん教えてもらいました。

また、ガリーナ先生の電子漢字教材のことに触れないわけにはいきません。電子漢字教材で私がとても興味を惹かれたのは、いろいろある漢字からお目当ての漢字を見つける方法の手軽さと、文章の中に漢字がいくつも用いられている例文です。漢字を学ぶ時には一つ一つの語を覚えるのではなく、文章の中でどういう風に漢字が用いられているかを知ることが効果的だと思えました。

興味が尽きない発表が全部終わって、私たち研究大会の参加者は全員が日本国大使公邸に招かれました。公邸では美味しい料理を囲んでお互いに今まで以上に知り合うことができました。様々な興味深い人々と知り合うことができ、本当に良かったです。

Знакомство с интересными людьми – подарок от конференции

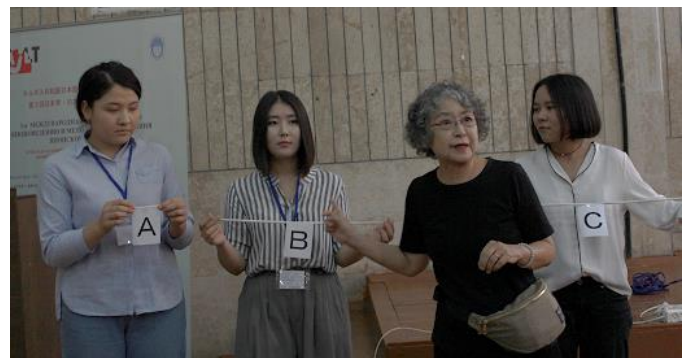
Умут Муратова, студентка 3 курса БГУ

Я раньше не раз слышала о готовящейся конференции от сэнпаев и тоже хотела принять в ней участие. Все лекции и доклады были для меня интересны, но достаточно сложны для понимания, так как в основном докладчики выступали на японском языке, который я изучала только два года. Особенно меня заинтересовала тема о переводе. Важно не только донести смысл текста, но передать и чувства, которые вкладывал в него автор, и только тогда это будет правильный перевод.

Доклад Китадзимы-сэнсэй отличался от других тем, что мы играли в игры и изучали японский язык в веселой, интересной форме. Я и ещё двое других студенток помогали сэнсэй во время ее доклада. Мы вытянули по верёвочке разной длины и сравнивали их, у кого длиннее, а у кого короче. А ещё было много других простых игр, которые делают изучение японского языка более интересным.

Также не могу не отметить электронный учебник по кандзи Галины-сэнсэй. Мне очень понравилось в этом учебнике удобство метода нахождения тех или иных кандзи, а также примеры предложений, в которых используются кандзи, так как мне кажется, что при изучении кандзи полезно использовать не только слова, но и предложения.

После интересных докладов все участники конференции были приглашены в резиденцию Посла Японии, где за вкусной едой смогли ещё больше узнать друг друга. Там мне удалось познакомиться с разными интересными людьми.



初めての学術会議

ビシケク国立大学 4年 アブディルダエフ・サマツ

僕は今まで第3回日本学日本語教育国際研究大会のような学術会議に参加したことがありませんでした。初めて経験した研究大会は僕に大きな印象を残してくれました。そして、なんだか自慢したくなるような気持ちになりました。だって、僕たちの国キルギスで開催されたこの大きなイベントは、キルギス共和国の日本語教育レベルと研究者や教授者の専門性がいかに高いかを示してくれたのですから。



すぐ近くの国からも遥か遠くの国からも教授たちがやってきましたが、皆大きな関心を持って大会に参加してくれている様子を目の当たりにするのは嬉しいことでした。そして、来年も喜んでキルギスに来ますよという言葉聞いて、僕は自分の国に誇りを感じたと同時に、我々の先生たちのことをすごく誇らしく思いました。

研究大会当日、僕は教師会と大学の先生たちのお手伝いをさせていただきました。担当は写真撮影でした。でも、できれば将来は発表者として参加したいと思っています。それは僕にとって本当に名誉なことです。

Моя первая конференция

Самаг Абдылдаев, студент 4 курса БГУ



Я впервые принял участие в таком мероприятии, как 3-я международная конференция по японоведению и преподаванию японского языка. Научная конференция оставила большое впечатление и чувство гордости, поскольку такое масштабное мероприятие проходило в нашей стране, что показывает высокий уровень развития преподавания японского языка и высокий профессионализм исследователей и преподавателей Кыргызской Республики.

Было приятно видеть, что профессора из ближнего и дальнего зарубежья заинтересованы в участии в научной конференции, а тот факт, что они с радостью готовы приехать и на следующий год, заставляет меня испытывать гордость за нашу страну и, конечно, гордиться нашими преподавателями.

Во время научной конференции я помогал организаторам, исполняя обязанности фотографа, но надеюсь, что в будущем у меня будет возможность выступить с докладом на таком масштабном мероприятии. Для меня это будет большой честью.



第3回日本学・日本語教育国際研究大会での発表を終えて

ビシケク国立大学上級講師（JOCV） 風間 祐月



8月24日・25日に、キルギスのビシケクで、第3回日本学・日本語教育国際研究大会が行われました。

今回の研究大会には、アメリカから牧野成一先生が、日本から近藤彩先生が招聘講師として来てくださり、また、参加者として、日本語研究者・日本語教師として活躍されている先生方から学生に至るまで、キルギス国内だけでなくロシアや日本からもたくさんの方々が参加してくれました。そして、口頭発表では、研究発表・実践報告を合わせて、14本の発表がありました。私自身、実行委員の一員として、研究大会の運営に関わっていたので、たくさんの方に参加してもらえて、本当に嬉しかったです。基調講演、

ワークショップはもちろん、口頭発表も興味深いものばかりで、とても勉強になりました。

そんな中で、私は「語彙習得を目指して—J-POP を使った授業—」という題目で、実践報告をさせていただきました。キルギスへ来て1年、学生の日本語能力向上と学習モチベーションの維持のために何ができるだろう、と試行錯誤しながら作ってきた授業だったので、緊張はしましたが、楽しく発表させていただきました。

発表することによって、1年を通して行ってきた語彙授業を改めて客観的に振り返ることができましたし、いろいろとコメントをいただき、更なる授業改善への道が見えてきました。今後、それをまた学生に還元していきたいと思います。



第3回キルギス日本語学・日本語教育国際研究大会

実行委員長：ヌスワリエワ・ジルディズ
ビシケク国立大学（旧称ビシケク人文大学）上級講師

8月24日～25日に開催された第3回キルギス日本語学・日本語教育国際研究大会にはアメリカ、日本、ロシア、キルギスの日本語研究者の参加がありました。

私は、今回の研究大会の実行委員長を務めました。初めての経験だったので苦労したことがたくさんありました。でも、勉強になったことは確かです。実行委員の皆さんと力を合わせて参加してくれた人たちに少しでもいい印象を与えたいと思って精一杯努めました。

今回の大会では、大学を卒業したばかりの学習者の発表が今までに比べて多かったように思います。キルギスでは、

日本語学や日本文化研究に興味を持つ学生の数が増えてきたと言えます。ところが皮肉なことに、日本語教師は年々どんどん少なくなっているのです。様々な要因がありますが、教師が辞めていく一番の原因は給料が少なすぎることです。

それにもかかわらず、研究を続けている同僚が少ないことが今回の研究会でもわかって、嬉しくなりました。みんな頑張っているのだと思うと、自分もできることを続けていこうという気持ちになってきます。ですから、この研究大会は年に一回開催されるだけですが、本当に意味のある重要なイベントだと思います。

私は、教師には人の人生に重要な影響を与える役割があると確信しています。自分の仕事に興味を持たない教師には学習者にいい影響を与えられません。日本語の授業を面白く、難しさを感じさせないように興味深くするためには、いろいろな方法があります。日本語に限らずどんな授業でも言えることですが、人によってそれぞれやり方が違っていても、学習者に何かを掴んでもらうという目標は同じです。

去年の第2回研究大会で招聘講師としてワークショップをくださった関麻由美先生が今年も参加して下さってとても嬉しく思いました。ロシアの著名な研究者であるグレーヴィチ先生もキルギスに来て下さいました。研究

大会の参加者は、プリンストン大学名誉教授の牧野成一先生の講演を聞くという、またとないチャンスに恵まれました。

麗澤大学教授の近藤彩先生の素晴らしいワークショップには教師だけでなく学生たちも参加できて、とてもいい経験をさせてもらいました。心からお礼申し上げます。牧野先生と近藤先生のお話を聞き、ワークショップに参加することを、教師も学生も本当に楽しみにしていました。私は、今まで生きてきた中で一番、言葉で言い表せないほど感動しました。

今回の研究大会は、参加した全ての人にとって忘れられない出会いと経験の場となったと思います。研究大会はこれからも大勢の日本語研究者が集まる伝統の催しになるよう期待しております。

ゲストの先生方、発表者の皆さん、参加者の皆さん、教師会の同僚たちに心から感謝したいと思います。



Конференция по японской филологии и методике преподавания японского языка

25-26 октября 2019 года в Москве состоится международная научно-методическая конференция с участием ведущих преподавателей японского языка России и стран СНГ **«Японская филология и методика преподавания японского языка в вузе»**. Организаторы конференции: Ассоциация преподавателей японского языка СНГ и РФ, Институт стран Азии и Африки МГУ имени М.В. Ломоносова, Японский Фонд.

Место проведения конференции: Москва, ИСАА МГУ им. М.В. Ломоносова, (ул. Моховая, д.11, ст. м. «Охотный ряд»)

Время проведения: 26 октября – начало в 14:20, 27 октября – начало в 10:00.

Приглашаем принять участие в работе конференции!

- Конференция будет проходить на русском языке.
- Работа конференции после пленарного заседания будет вестись по следующим направлениям:
 - 1) Актуальные вопросы современного японского языкознания
 - 2) Современные методы преподавания японского языка
 - 3) Культурологический аспект в обучении японскому языку
- Желаям выступить с докладом необходимо **до 15 октября с.г.** сообщить тему выступления Румак Наталье Григорьевне, адрес электронной почты: koyamaneko@yandex.ru
- Время выступления -10 минут.
- По результатам конференции будет опубликован сборник статей.
- Полнотекстовая версия сборника размещается:
 - в Научной электронной библиотеке eLIBRARY.RU
 - включается в РИНЦ (постатейно)
- Если для участия в конференции требуется приглашение со стороны организаторов, просим сообщить на чье имя (зав. кафедрой, декан и т.п.) и для кого (ФИО, должность) необходимо отправить приглашение. _
- **Напоминаем, что, в связи с введением новых правил прохода в институт, для участия в конференции как в качестве докладчика, так и в качестве слушателя необходимо зарегистрироваться по адресу koyamaneko@yandex.ru (указать ФИО, вуз, статус/должность) строго до 20 октября 2018 г.**
- Проезд и проживание иногородних участников конференции – за счёт направляющей стороны.

Председатель Ассоциации преподавателей японского языка СНГ и РФ,
доктор педагогических наук,
профессор Нечаева Л.Т.

Приветствие от Ассоциации преподавателей японского языка СНГ и РФ



Ассоциация преподавателей японского языка СНГ и Российской Федерации поздравляет Ассоциацию преподавателей японского языка Кыргызской Республики с 20-летием деятельности. С момента создания в 1999 году Ассоциация играла большую роль в развитии преподавания японского языка в Кыргызстане. Деятельность Ассоциации также в значительной степени способствовала распространению японского языка и культуры Японии в Кыргызстане.

Представители Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызстана постоянно принимали участие в конференциях «Японский язык в вузе. Актуальные проблемы преподавания», проводимых в Москве нашей Ассоциацией, выступали с очень интересными докладами. Статьи преподавателей японского языка из Кыргызстана публиковались в сборниках по методике преподавания японского языка, издававшихся после конференций.

Студенты, приезжавшие в Москву на конкурс «Выступление на японском языке», всегда показывали высокий уровень, что говорит о их хорошей подготовке.

Желаем Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики успехов в дальнейшей работе. Надеемся, что преподаватели Ассоциации будут, как и раньше, активно участвовать в конференциях и конкурсах, проходящих в Москве.

Председатель Ассоциации преподавателей японского языка РФ -

Нечаева Людмила Тимофеевна,

доктор педагогических наук,

профессор ИСАА МГУ им. М.В. Ломоносова,

академик Российской Академии Естествознания

祝辞

CIS・ロシア連邦日本語教師会よりキルギス共和国日本語教師会 20周年のお祝いを申し上げます。貴協会は1999年の創立以来キルギスの日本語教育発展に大きな役割を果たされ、その活動はキルギスにおける日本語と日本文化の普及に大きく貢献するものです。

キルギス共和国日本語教師会は、CIS・ロシア連邦日本語教師会がモスクワで開催している学術会議『高等教育における日本語—教育の諸問題』に毎回代表を派遣していますが、キルギス代表はいつも興味深い報告をしてくださいます。キルギスから学術会議に参加した日本語教師の方々の論文は、学術会議後に発行する日本語教授法に関する論文集に掲載されています。

モスクワの学生日本語弁論大会に出場したキルギス代表の皆さんは常に高いレベルを示してきました。しっかり準備していらっしゃるのがよくわかります。

キルギス共和国日本語教師会が今後も一層の活動成果をあげられるよう願っています。そして、貴協会の教師の皆さんが今までと同様に積極的にモスクワの学術会議やコンクールに参加されることを期待しております。

CIS・ロシア連邦日本語教師会 会長 ネチャーエワ・リュドミラ (教育学博士)

モスクワ国立総合大学付属アジアアフリカ諸国大学教授

ロシア連邦自然科学アカデミー会員

日本語弁論大会は日本語学習者の成功の元

Japan Style オシユ・トレーニングセンター所長 ママーシェワ・ジィデグーリ



2003年、私はカラサエフ記念ビシケク人文大学（現ビシケク国立大学）国際関係学部に入学し、第一東洋言語として日本語を選択することにしました。正直なところ、当時の私にはいったい日本はどんな国なのか、日本語はどんなことばなのか、全く見当もつきませんでした。日本語を身につけて日本に留学するのだという気持ちもありませんでした。でも、入学してはじめて日本語の授業を受けた時から日本語は私の人生の一部にな

ったのです。ひらがな、カタカナ、そして漢字を覚えるのが日増しに面白くなっていきました。

二年生になって人文大学の学内日本語弁論大会に参加するため「子供たちは私たちの未来」というテーマで原稿を書きましたが、その時は予選で落ちてしまいました。三年生のとき日本語教師会主催の作文コンクールに参加して「子供たちのために私ができること」というテーマの作文で6位に入賞しました。四年生のときは秋と春の2回、国内日本語弁論大会に出場しました。秋は「自分のことばで学びたい」というテーマで発表しました。2位になってモスクワのCIS弁論大会に出場することができました。入賞はできませんでしたが、そのときの経験が翌年春の国内弁論大会での優勝につながったのだと思います。国内大会に続いてカザフスタンのアルマティで開催された中央アジア弁論大会でも、私は2位に入賞することができました。

弁論大会に参加すると日本語運用能力が飛躍的にアップします。日本語学習者にとってとても役立つ経験です。私は日本の北海道教育大学に留学することができました。何度も弁論大会に参加してその度に日本語のレベルを高めることができたおかげだと思っています。そして、留学して北海道で過ごした1年間、とても大きな経験をすることができました。人生が変わったといってもいいくらいです。

素晴らしい経験をさせてくれた日本語の先生に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ビシケク人文大学で、そして日本センターで、私を教えてくださいました何人もの先生に、心から感謝しています。ですから、私は今年キルギスで中央アジア日本語弁論大会が開催されることを知ったとき、ぜひ応援しなければと思ったのです。日本語を学んできた私のほんの小さな恩返しです。

日本語を勉強し始めたばかりの皆さん、まだまだ力が不足していると思っている皆さん、勇気を出してぜひ日本語弁論大会に参加してください。日本語で自分の想いを伝える経験は、皆さんの日本語と人生を豊かにしてくれる大きなチャンスなのであります。

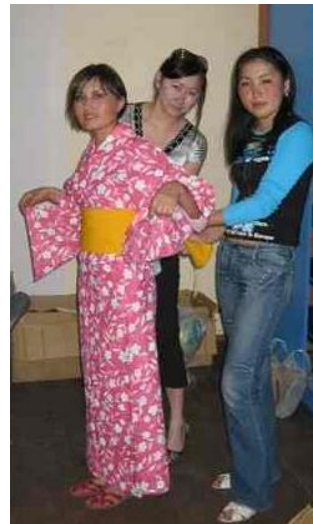
遅ればせながら、キルギス共和国日本語教師会20周年のお祝いを申し上げます。教師会の皆さんの活動をこれからも応援させていただきます。日本語の先生方、今後ともどうぞ宜しくお願い致します！

Участие в конкурсе ораторского искусства на японском языке - ключ к успеху в изучении языка

Жийдегуль Мамашева, директор Джапан стайл тренинг-центра по южному региону, преподаватель японского языка, выпускница БГУ 2008 г.

В 2003 году я поступила на факультет востоковедения и международных отношений Бишкекского гуманитарного университета им. К. Карасаева, при этом выбрала японский язык. Честно говоря, тогда я не имела представления о Японии и японском языке. Я не была уверена в том, что овладею японским языком и не предполагала, что получу возможность съездить в Японию. Но с первого курса японский язык стал частью моей жизни. Хирагана, катакана, кандзи становились для меня с каждым днем все интереснее и интереснее.

На втором курсе я узнала о конкурсе ораторского искусства на японском языке среди студентов БГУ, написала спич на тему «Дети – наше будущее», но моя тема не прошла. На 3-м курсе я участвовала в республиканском конкурсе сочинений на японском языке на тему «Что я могу сделать для детей» и заняла 6-е место. Когда я училась на четвертом курсе, осенью состоялся конкурс ораторского искусства на японском языке, тогда тема моего спича была «Хочу учиться на родном языке». В спиче я рассказывала о том, с какими трудностями сталкивалась из-за незнания русского языка, о том, что в стране должна разрабатываться учебная литература и на кыргызском языке, но при этом мы все должны владеть русским языком, так как этот язык является официальным языком Кыргызской Республики. На этом конкурсе я заняла 2-е место и получила возможность принять участие в конкурсе студентов стран СНГ, который проводился в МГУ в Москве. Хотя я не заняла в Москве призовое место, участие в таком конкурсе было для меня очень полезно. Затем я участвовала в весеннем конкурсе среди студентов Кыргызстана и заняла 1-е место, в том же году выступила на Центральноазиатском конкурсе, который проводился в г. Алматы в Казахстане. Там я заняла 2-е место.



Участие в таких конкурсах дало мне колоссальный опыт, благодаря чему я смогла поднять свой уровень знания японского языка и прошла отбор на годичную учебу в Хоккайдском педагогическом университете Японии по программе обмена студентов. Живя и учась в Стране восходящего солнца, я узнала много нового и многому научилась.

В заключение хочу выразить огромную благодарность нашим замечательным преподавателям японского языка БГУ, особенно Уваровой Нами-сэнсэй. Также я очень благодарна преподавателям Кыргызско-Японского центра человеческого развития, где я тоже училась японскому языку.

Я решила выступить в качестве спонсора Центральноазиатского конкурса ораторского искусства 2019 года, потому что считаю, что этот конкурс является ключом к повышению уровня знания языка. Советую всем начинающим изучать японский язык обязательно участвовать в таких конкурсах.

Поздравляю членов Ассоциации преподавателей японского языка в КР с 20-летием! Желаю вам здоровья и дальнейших успехов!

タラス市立子ども教育センター・日本語教室の歩みと近況

г. Талас, Детский образовательный центр «Баластан»

2019年8月1日 元担当教師・寺田たつお (NPO 法人・草の根国際協力会 HOPE)

センターの電話：03422-52674 寺田の連絡先 E-mail：trock46@gmail.com, WhatsApp: +996 776 280651

キルギスの日本語教師の皆様、いかがお過ごしですか。2019年7月で最終帰国した寺田です。長年励まし助けてくださり、本当にありがとうございました。

タラス州政府庁舎のはす向かい、市立子ども教育センターにある、市民日本語教室の近況をお伝えいたします。

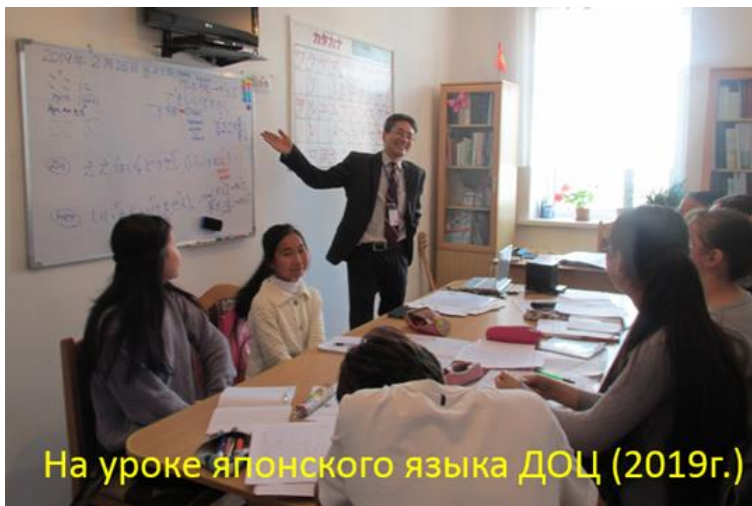
☺新しい先生。 クダイ・ブユルサ(神がお許しになれば)、2020年初めからJOCV(JICA ボランティア)が子ども教育センターに派遣されます。青少年活動のかたわら、補助的に日本語生徒たちの学習も助けてくれる予定です。日本で7月から、ボランティア候補の方と前任者である寺田が数回会って、引き継ぎをしています。

◎日本語、やめないで！ 教師も日本人も不在となる2019年後半はとくに、生徒たちをフォローしなければならぬと考えています。2019年年頭から使い始めた教材(NHK ワールドラジオの『やさしい日本語』)による自習を、ワッツアップで励ましています。学習意欲のある継続学習者たちには、『みんなの日本語 初級 I・II』の本冊とロシア語翻訳・解説、音声 CD 等を託しました。独学で続けるのは大変困難ですが、日本から不定期に行なうスカイプとワッツアップによる授業や個別の質疑応答で、できることをして行きたいです。

☺キルギス出身の日本語の先生を。 しかし、日本人の教師はいつか帰国してしまいます。真の教室継続のために、あくまでキルギス出身の教師が必要です。この記事を読んでいる皆様のどなたか、タラスに来て、市立子ども教育センターに就職して下さいませんか！？

○タラス市民日本語教室の歩みと近況 2019年6月まで(一人目の教師の時代)をまとめました：

開始年	2007年1月、NPO メディアモスト(→「ラジオモスト」)にて、教室立ち上げ。 2010年1月から、タラス市立子ども教育センター内にて継続、現在に至る。	
教師	2019年8月現在、不在。(2019年6月までは1人。)	
教科書	『日本語 20 時間 ロシア語版(Теперь Вы можете говорить!)』(スリーエーネットワーク)、NHK ワールドラジオ『やさしい日本語』のテキスト(サイトからダウンロードして印刷)、『みんなの日本語 初級 I・II』(本冊、ロシア語翻訳解説)。	
授業時間	45分×週3回	
2018 年度末 の学習者は、 27人でした。	学年別内訳	学習グループ別内訳
	2年生：1人	入門者継続者1(1年目) 09:00-09:45：2人
	4年生：3人	継続者1(2年目) 10:00-10:45：4人
	5年生：2人	入門者2(1年目) 13:00-13:45：2人
	6年生：5人	継続者2(1年目) 14:00-14:45：3人
	7年生：3人	入門者3(1～2年目) 15:00-15:45：8人
	8年生：3人	継続者3(2～3年目) 16:00-16:45：7人
	9年生：1人	継続者4(2～3年目) 17:00-17:45：1人
	10年生：3人	
11年生：4人		
専門学校(コレッジ)学生：2人		



На уроке японского языка ДОЦ (2019г.)

1. 教室の目標 ①基礎的な日本語力の養成。希望者をビシケクや日本での継続学習につなげること。

②日本と日本人を好きになってもらうこと。異文化間の草の根交流による、相互理解や平和創出(ユネスコ憲章参照)。

2. 特色

①地方にある公立の学習機関として、月謝が比較的安いこと(現在 500 ソム)。障がいのある生徒や家庭の事情(親が不在や病気・子だくさん等)による学費免除(2018 年度の日本語生徒中 5 人)・減額(同じ

く 2 人)の制度があります。

②「子ども教育センター」でも、日本語教室に年齢制限はなく、全ての希望者に開かれた「市民日本語講座」です。

③少人数ですが、本人の希望で学習を始めるため、学習意欲は高いです。ただし「優しい先生」で居心地が良く、生徒同士が仲良くなって私語も増えるので、授業に集中させるためにはエネルギーと準備が必要です。

3. 教育現場での工夫

①**ワッツアップによる補習や宿題**：NHK ワールドの『やさしい日本語』の 10 分授業(ロシア語版)を DL して、授業時間以外に聴いてもらいます。

②**文字かるた(ひらがな・カタカナ・漢字)**：遊んで親しみます。授業中に「先生、かるたをしましょう！」と声がるほど、好評です。

③**漢字の教え方**：成り立ちを絵や身振り面白おかしく説明。気軽な習字体験(水で一時的に書ける専用紙と筆で)も人気です。また、「形と意味に慣れれば、ひらがなだけの文章よりも速く読める」という、記号としての利点を説明します。

④**日本語の歌**：(「君は愛されている」というメッセージソングや、生き方を考えさせてくれる歌)を紹介。日本語はやめた元生徒たちも、歌は覚えています。



Пишут слово «АИ» (любовь) в японской каллиграфии (2018г.)



日本語のお客さんを迎えると、生徒たちの顔が輝きます！



⑤**日本のアニメやドラマ**：具体的場面の中での会話になじんでももらいます。ジブリシリーズや、『1 リットルの涙』など。

⑥**日本と世界を知る**：歴史・文化・伝統、歴史上の人物、現在の社会のようすを動画(YouTube や字幕付きの「プロジェクト X」等)で紹介、「世界の中の自分」を考えてもらいます。例えば、第二次大戦後の復興や、医療・農業・工業に貢献した人たちの生き様、東日

本大震災や原発事故の被災者たち。あるいは戦禍の中にあるシリアの子どもたちの姿、など。

⑦**教師自身の少年期の体験談**：進路選択の相談や、思春期の打ち明け話などには、教師の失敗談が一番。

⑧**励みになる先輩の体験を紹介**：例えば、出身の日本留学生(現在自費1名、日本の国費1名)の近況を話したり、ワッツアップで対話してもらったりします。ビシケクに進学・就職した元生徒の誰かが帰省して来た時には、彼らの中高生時代の体験や、大人になった現在のようすや課題などを話してもらいます。

⑨**日本語のお客さんを迎えるイベント**：キルギス教育科学省により冬季の峠越え禁止が厳しくなり、2018年からはビシケクでの12月の能力試験や3月の弁論大会に参加できなくなりました。その代わりに、公式問題集などを利用して「日本語能力模擬試験」を始めました(2019年2月、6月)。また、日本語教育専門家とJOCVの先生方を審査員に迎えて、「作文朗読」と「カラオケ」のコンクールを行ないました(2019年6月、ラジオモストにて)。まったくの初歩でも、ゲストの先生方の前で朗読し、ほめてもらえる体験は、学習者にとって大きな励みになりました。また、視察に来てくださった日本語教師の皆様や、休暇でタラスに来られた日本人ボランティアや旅行者に、それぞれの専門分野のプレゼンをしてもらったり、一緒にマナスオールドーに出かけたりする交流は、学習者たちも子ども教育センターの所長も大喜びするイベントとなりました。タラスに足を伸ばしてくださった皆様に、心から感謝しております。

⑩**一生の友だち**：ビシケクでは年に数回同窓会(カフェで食事会)を開いて、元生徒たちと互いの近況や課題を伝え合い、励まし合ってきました(右下の写真)。日本語学習を続けてもやめても一緒に、この交流の輪は広がります。他州出身の日本語学習者や、日本滞在経験のある障がい者自立運動のリーダーも加わり、「日本にいる先生や留学中の仲間とビデオ通話したい」という気持ちで、続けることができそうです。ワッツアップに感謝！

4. 展望

①**日本留学や研修という動機づけ**。「アニメシクだから」「日本文化が好きだから」日本語を始める生徒たち。しかし、この2年ほどの日本社会の外国人研修生の受け入れ拡大(深刻な労働力不足の解消のため)は、田舎町タラスでも、現実的に「日本に行ける」という期待と目標を持った、新たな学習者を生み出しています。

②**2019年の後半は教室が途切れます**。学習者が日本語を「捨ててしまう」のを防ぐのが、大きな課題です。皆様、もしもタラスに行かれる機会があれば、ぜひタラスの日本語生徒たちと会って、日本語で話してください！【冒頭の、寺田の連絡先にご一報を。】



今後とも、タラス日本語教室をよろしく願いいたします。

◆刊行の目的

- ・キルギス共和国日本語教師会の会員等の研究成果・実践報告の発表に資することを目的とする

◆紀要名称

- ・紀要名称を『キルギス日本語教育研究』とする

◆投稿内容・種類

- ・日本語教育学、日本学、授業実践・教育事情報告、通訳・翻訳、その関連分野のもので、未公開のもの（ただし、学会等での口頭発表はこの限りではない）
- ・同じ内容の原稿を他誌に投稿している場合（二重投稿）は不採用とする
- ・「研究論文」「教育事情・実践報告」「研究ノート」の3部門を設ける
 - ※「研究論文」は編集委員が任命する3名により査読を経て、掲載可否の決定をする

◆投稿資格

- ・キルギス共和国日本語教師会会員
- ・キルギス共和国日本語教師会会員との共同執筆者
- ・キルギスの大学に在籍する大学院生、学部卒業生、学部生
 - ※学部卒業生、学部生については、指導教員またはそれに準ずる者との共著に限る
- ・キルギス共和国日本語教師会会員によって構成される編集委員会が特に認めた者

◆編集・発行形態

- ・教師会内に紀要編集委員会を設け、3名の編集委員で構成する
- ・年1回刊行（PDF形式、冊子体で発行）

◆原稿の使用言語

- ・日本語・ロシア語を原則とし、その他の言語については、紀要編集委員会の判断による
 - ※ただし、引用・用例の言語は原則として制限しない

◆投稿の方法

- ・投稿方法は、すべてE-mailでの投稿とする 提出先：紀要編集委員会 kyoushikaikyrgyz.ed@gmail.com

◆投稿できる原稿数等

- ・投稿できる原稿は、共同執筆を含め原則として1号につき2編以内とする
 - ※ただし、編集上の都合により1編に制限されることがある

◆投稿締め切り

- ・締め切り日は次の通りとする **2019年10月30日17時（キルギス時間）必着**
- ・提出後の差し替えは一切認めない
- ・締め切り日を過ぎて到着した原稿は、次号投稿分として受理する
 - ※掲載時期を勘案のうえ、投稿を取り下げる場合は事務局まで連絡すること
- ・投稿前に必ず執筆要領に沿っているかを確認すること

(<https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/投稿ガイド-執筆要領/>)

◆採否の決定

- ・投稿された原稿は、学会誌委員会による審査を行い、採否を決定する
- ・採否の結果及びその理由については、締め切り日から2か月以内にEメールにて投稿者に通知する

◆査読結果の取扱い

- ・紀要編集委員会からの査読結果及びコメントその他の通知内容は、当該論文の執筆者に対する伝達を除き、非公開とする

◆論文の公開

- ・本教師会ウェブサイト内の「教師会紀要 キルギス日本語教育研究」に、全文を公開する

◆著作権

- ・『キルギス日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は、キルギス共和国日本語教師会に帰属する
 - ※原稿の他の出版物への転載等は、キルギス共和国日本語教師会の許可を得たうえで行うこと
- キルギス共和国日本語教師会紀要編集委員会
(2019年3月策定)

キルギス共和国日本語教師会会報第54号 2019年9月23日発行
キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kyoushikaikyrgyz@yahoo.co.jp
賛助会事務局 E-mail: kyoushikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

編集担当：キルギス共和国日本語教師会会報編集委員会 ヴォロビヨフ・ガリーナ、ロディナ・ガリーナ、ミヘルチッチ・ヤネズ、ザイトワ・シャヒデム

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики № 54 от 23.09.2019 г.

Редколлегия: Галина Воробьева, Галина Родина, Янез Михельчич, Шахидэм Зайтова